

こんにちは！ 室長の工藤です。

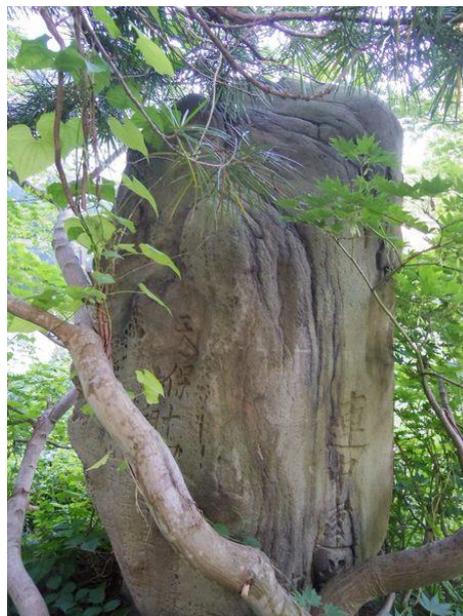
先日、大矢沢にある香取神社に行ってきました。香取神社は藩政時代に青森町の総鎮守であった毘沙門堂を由緒に持つ神社です。当時は国道柳町交差点南側に大きな社地を構えていましたが、敗戦後社地は大幅に削られたといえます。現在地の大矢沢には平成3年（1991）に遷宮されました。

さて、現在の境内を訪ねてみると、鳥居右手にある香取神社の社号標は明治41年（1908）の「東宮殿下（のちの大正天皇）行啓記念」で建てられたものであり、また左の方に歩いていくと、昭和3年（1928）11月4日に大町・米町の氏子が建てた「御大典（昭和天皇の即位御大典）記念碑」などがあり往時を偲ぶことができます。



香取神社の鳥居と社号標

さらに、境内には藩政時代の毘沙門堂の頃、天保12年（1841）8月に奉納された石灯籠、同14年の松尾芭蕉の句碑があります。句碑は芭蕉の没後150年に合わせて建てられたもので、「青森第一の宗匠」といわれた上林祇山の名前も碑の裏面に刻まれています。



松尾芭蕉の句碑

そして何よりも目を惹くのが、嘉永2年（1849）4月に奉納された一対の狛犬です。これには「運送加州宮腰錢屋 宝国丸八十吉」とあり、加賀百万石で知られる金沢藩の<sup>がいこう</sup>外港宮腰の商人錢屋の手船宝国丸の船頭八十吉が石材を運搬したことが分かります。



香取神社の狛犬

そして、奉納者として22名の商人名が刻まれており、そのうち7名が青森浜町の豪商滝屋善五郎とその分家筋の者たちの名前です。錢屋からも錢屋喜助の名前があります。錢屋は天保の飢饉をきっかけに弘前藩に接近し、弘前藩の御用金調達に応じついでには青森支店を開設しました。その際、錢屋を弘前藩に紹介したのが滝屋善五郎で、青森支店の業務を担ったのが錢屋の船頭喜助だったのです。しかも、喜助は滝屋に寄宿して青森での支店業務を展開するなど（独立した店舗を構えた訳ではありません）、錢屋は滝屋と浅からぬ縁を結んでいました。

さらに、丸屋佐助という商人の名前も刻まれています。彼は青森町で味噌醸造業を営む渡辺佐助という人物で、2代目渡辺佐助の伝記によれば前年の嘉永元年に青森町に移住したばかりでした。しかも、移住に関しては滝屋善五郎の口添えがあったといえます。したがって、ここに名前を刻まれた面々は滝屋との関係の深い商人たちであるとみられ、滝屋を中心とする商人ネットワークの一端を垣間見ることができるのです。もちろん、狛犬奉納も当然滝屋が中心になって話が進められたものと考えていいでしょう。

ちなみに、滝屋善五郎家の彦太郎が日々記した日記に、箱館開港後に外国人との取引に失敗して借財のカタとして「人質」に取られたという逸話を残す大村屋庄蔵もここに名を連ね、滝屋グループの商人であったことがうかがわれます。



奉納者の名前（瀧屋善五郎、大村屋庄蔵ほか）



奉納者の名前（錢屋喜助、丸屋佐助ほか）